資　料　３　　令　和　５　年　１　１　月　３　０　日
東京都地域福祉支援計画推進委員会　第２回専門部会

なぜ、いま、つながりなのか

東京都福祉局生活福祉部

2023年11月30日

石田光規＠早稲田大学

1　実態確認

つながりのありよう

今まで私たちを取り込んでくれたつながりの動揺

血縁　地縁　会社縁

↓

つながりを確保しなければ孤立する時代の到来

⇒

誰もが孤立のリスクを背負う時代の到来

日本社会の情勢

2005年：NHKスペシャル『ひとり団地の一室で』
→団地の孤立死を特集
2007年：孤立死防止推進事業
2010年：NHKスペシャル『無縁社会』
2021年：孤独・孤立対策担当室の設置

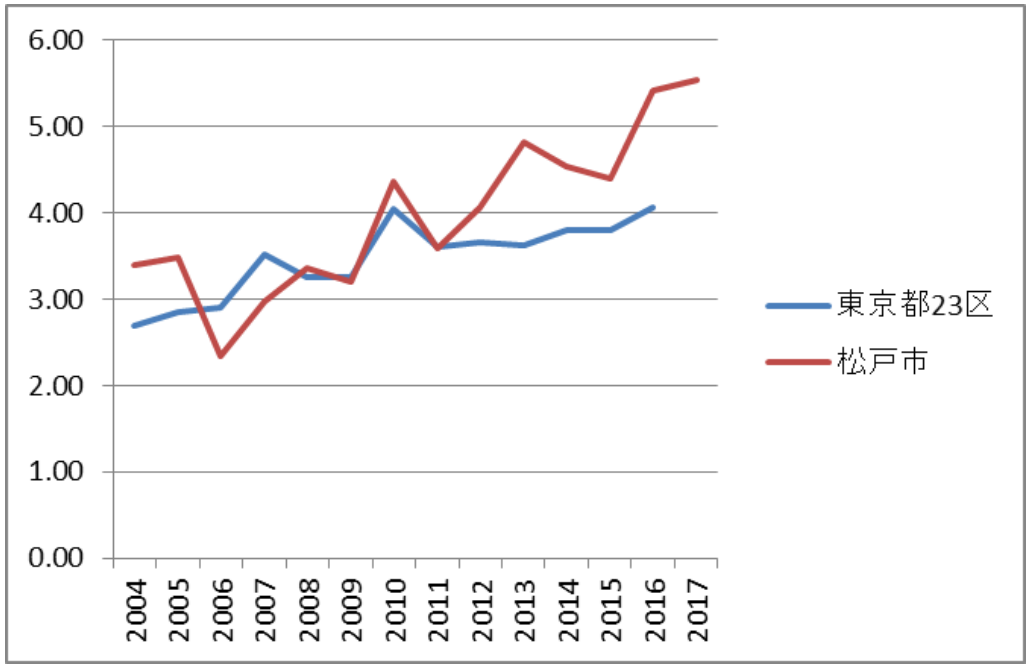


図　孤立死率（東京都23区、松戸市）

増え続ける孤立死！

身近な安全弁としての地域へ熱い視線

変わったことと留意点

1. そもそも人と結びつかなくてもよい社会になった
2. わざわざ「場」に出向かなくてもよくなった
3. つながりがより選別的になった
4. 誰かと会うためには理由付けが必要になった

- 特定の人とつき合わなくてよい社会
- つながる相手を選べる社会
- 孤立が生まれやすい社会

- 「居場所」が求められる社会
- 選んでもらう存在としての地域へ

一方での気になる傾向１：先細る地域のつながり

望ましい近所づきあい

深いつながりはしないし、望まない

2016年東京調査　実際の近所づきあい

つきあいはない

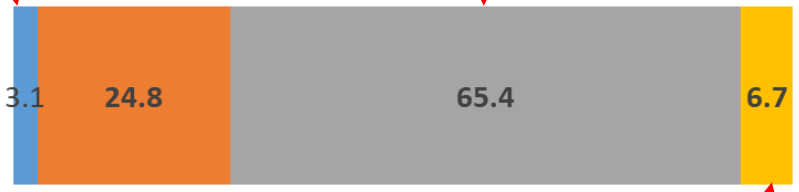
挨拶する程度の人がいる

立ち話する程度の人がいる

互いに訪問し合う人がいる

相談のできる親密なつき合い

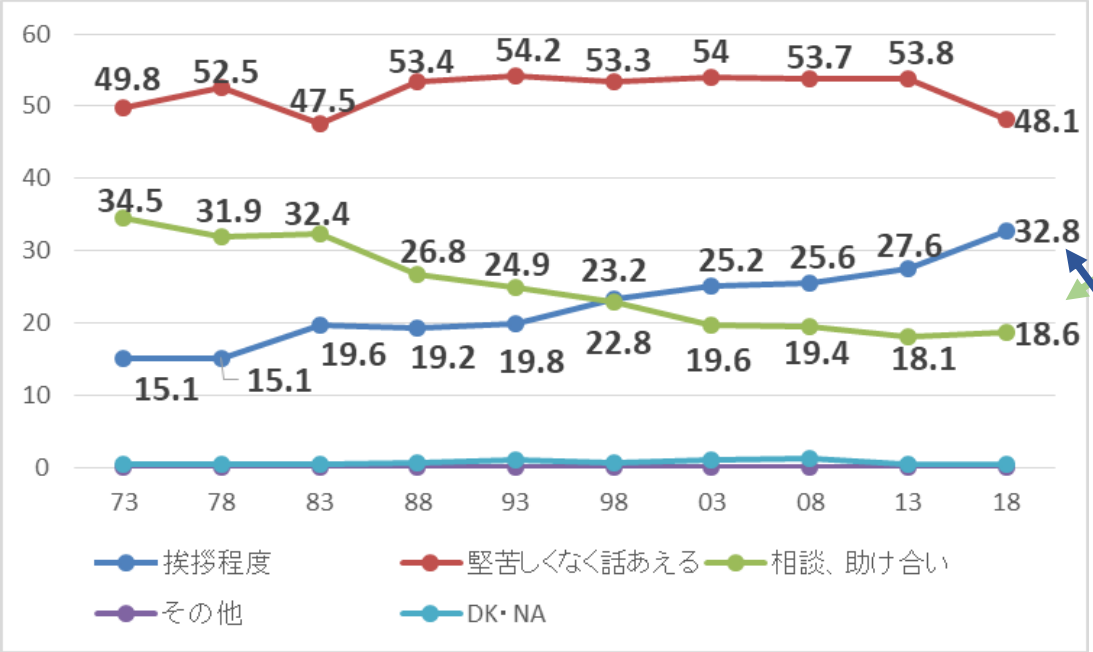
挨拶程度のつき合い



気軽に頼み事のできるつき合い

あまりおつき合いしたくない

NHK放送文化研究所『日本人の意識調査』



「相談、助け合い」のできる近所づきあいを望む人の下落（緑）

挨拶程度の近所づきあいを望む人の増加（青）

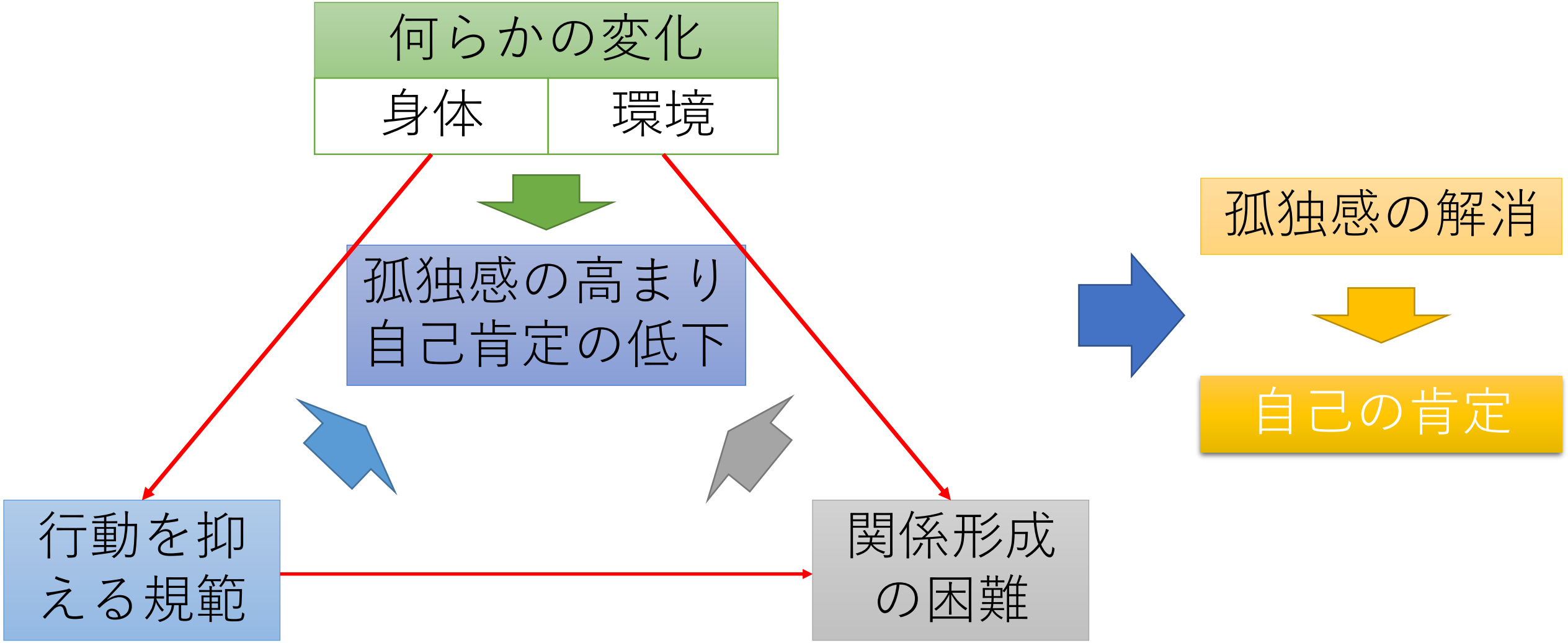
一方での気になる傾向２：望まれないつながり

- 生協総合研究所の2023年調査：25歳から54歳対象

A	B	A,ややA	B,ややB
わずらわしくても人との付き合いが密接な社会がよい	さみしくても個人の自由を尊重してくれる社会がよい	34%	66%
目的や利点がなければ、わざわざ人とつきあう必要はない	目的や利点がなくても、人とのつきあいは不可欠だ	51.2%	48.8%
多くの人は自分のことばかり考えて行動している	多くの人は周りの人の幸せを考えて行動している	78.4%	21.6%

2　方策の検討

孤独・孤立への移行と回復



なかなか支援につながらない人たち

- 3つの「ない」
  - ➢認識：支援の対象だとは思わ「ない」
  - ➢手間：支援の先を調べるゆとり・時間が「ない」
  - ➢情報：支援の受け方がわから「ない」
- 内閣官房の調査から：孤独感別の支援を受けない理由

✓ 必要ない、我慢できると考える
✓ 受け方が分からない
✓ 面倒

		支援が必要ではないため	支援が必要だが、我慢できる程度であるため	支援の受け方がわからないため	支援を受けるための手続が面倒であるため	支援を受けるのが恥ずかしいと感じるため	支援を受けると相手に負担をかけるため	支援を申し込んだが断られたため（支援対象外の場合を含む）
決してない	2522	93.1%	3.8%	4.1%	1.6%	0.3%	0.2%	0.2%
ほとんどない	4134	90.7%	5.1%	4.6%	1.8%	0.5%	0.3%	0.3%
たまにある	1784	83.5%	9.0%	9.5%	4.2%	1.8%	1.2%	0.3%
時々ある	1442	**76.2%**	**12.8%**	**12.8%**	**5.1%**	2.8%	1.5%	1.5%
しばしばある・常にある	445	**61.3%**	**13.9%**	**23.6%**	**9.2%**	4.3%	4.3%	2.7%

「相談」という言葉の重さ

ヒアリングでしばしば耳にする言葉

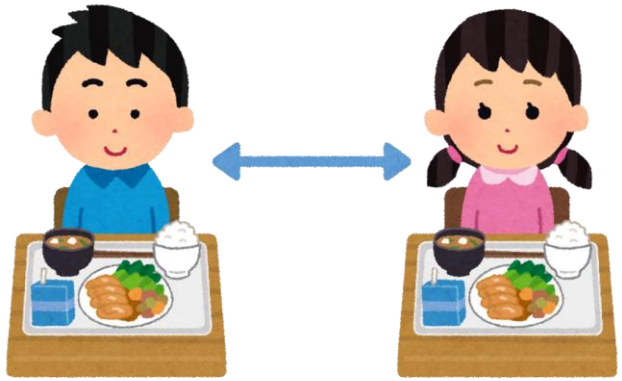
- ✓ こんなことを相談していいと思わなかった
- ✓ 人に相談するということに抵抗感がある

「相談」という言葉は想像以上に重みがあるらしい

- ✓ 話を聞かせてもらうという姿勢の重要性
  →ヒアリング、アウトリーチの活用
- ✓ 親しい人に対してほどしにくい相談
  →第三者的な居場所の活用

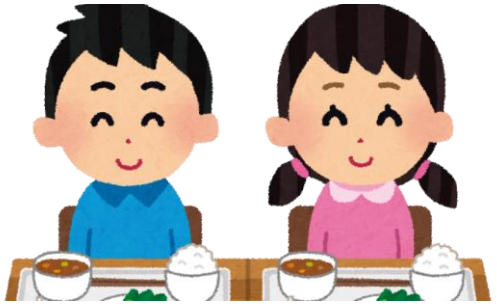
居場所、つながりを意図的に準備する時代

一人になりやすく、人との距離を感じる社会



- 人それぞれ
- 本音を言えない
- オンライン化
- 配慮

人とつながる機会を意図的に準備しなければならない社会



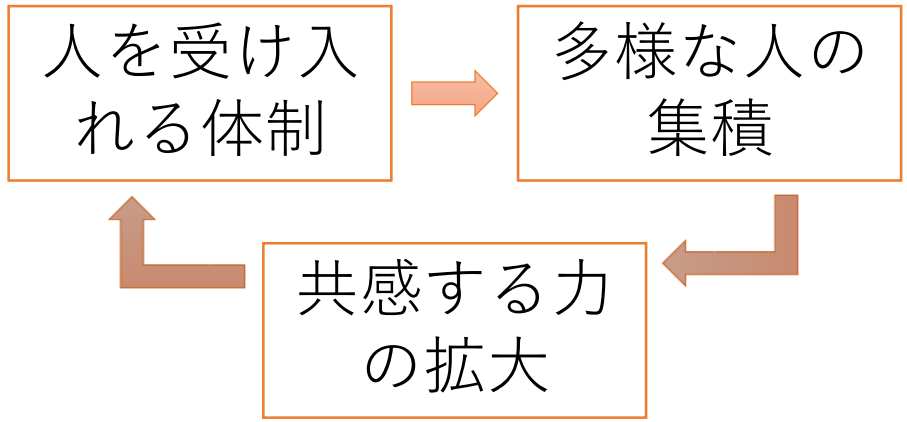
居場所を意図的に準備しなければならない社会

- かつては放っておいても人は誰かとつながっていた
- 居場所が「いるところ」以上の特別の意味をもつように

「居場所」を「つくる」ということ

- 「居場所」と「つくる」の矛盾
  - ✓「居場所」の本質：
    - ➢個々人が事後的に判断するもの
    - ➢つまり、あらかじめ設定することが難しい
    - ➢現代社会は、無目的な居場所を目的をもってつくらないといけない

- 居場所づくりのポイント：二つのアクセス
  - ✓物理的アクセス：手軽に足を運べる工夫
    - ➢近くにある
    - ➢相談・交流を押し出すことの難しさ
    - ➢日常の行動と関連させる（食事、散髪）
  - ✓心理的アクセス：気を使わず居られるために
    - ➢受容と共感の好循環



ゆるやかなつながりのススメ

- 強いつながり＝「よい」という考え方の落とし穴
  - ✓強いつながりが苦手な人もいる

- ➢ 構えすぎてしまう
- ➢ うまく話せない
- ➢ かえって疲れる

  - ✓強いつながりだからこそ装ってしまい頼れないという現象

- ゆるやかなつながりのススメ
  - ✓何かがあったとき「オン」になるようなつながりの種をまいておく
    - ➢ 手前味噌ですが卒業生の対応
  - ✓茶飲み友だちのようなつながりを見直す

つながりのつくり方

- ✓ヒアリングを活用する＝実態把握と顔つなぎの両立
  - ➢町会、自治会、集落、地域団体
  - ➢地域特性を考慮した対応を可能にする
- ✓自治体と市民団体の立地を隣接させる
  - ➢善通寺市：市役所とＮＰＯ団体くすくす
  - ➢佐久間町：ヘルストピア構想
- ✓キーパーソンをさがす、育てる
  - ➢都市部、農村部でもキーパーソンがつながりをつくりがち
- ✓日常の出来事と関連させる
  - ➢子ども食堂の強み